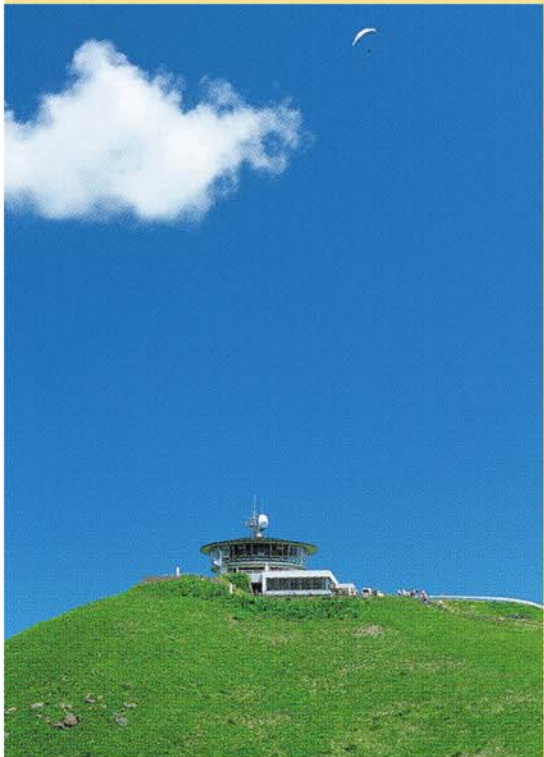


広告



白黒のしま模様が特徴的な入道埼灯台



寒風山からは、360度の風景が楽しめる



男鹿の海を再現した巨大な水槽がある「男鹿水族館GAO」



夕日の名所、八望台から見た二ノ目湯と戸賀湾

能代・白神エリアと男鹿半島の神秘を訪ねる

秋田デスティネーションキャンペーン 12月31日まで



リゾートしらかみ

JRグループ6社は秋田県はじめ関係自治体などと協力して、12月末まで、秋田デスティネーションキャンペーン(DC)を展開しています。「美の国あきた」は自然遺産の宝庫です。今回は、12月で世界遺産登録20周年の白神山地を含む能代・白神エリアと、男鹿半島の神秘を訪ねます。

県内至る所に広がるジオパーク

世界的なブナの森、白神山地へは東能代からローカル線五能線に向かいます。人気のリゾート列車「リゾートしらかみ」は白神山地の裾野を日本海に沿って能代、あきた白神、岩館と秋田県内をゆくり北上します。

秋田杉で有名な能代には日本を代表する松原の一つ風の松原があります。江戸時代中期に植林された砂防林で、700万本という国内最大級の松林は圧巻です。

秋田県で白神山地の山域に入るにはあきた白神駅が便利です。駅前の「八森いさりび温泉ハタハタ館」とあきた白神体験センターとは隣接しています。どちらもトレッキングなど体験メニューが用意されていて、白神山地自然体験の基地となっています。

「ハタハタ館」ではハタハタ漁で使う舟をモチーフにした露天風呂と、ハタハタ料理、アワビ料理が人気です。

白神山地は誰もが知っていますが、山から海に延びた地層が「八峰白神ジオパーク」を形成していることはあまり知られていません。「ジオパーク」はユネスコが支援する地球活動の遺産を保全し活用する地域のことです。

八峰白神ジオパーク推進協議会会長の工藤英美さんは「日本一小さいジオパークですが、実力は世界レベルです。白神山地を形成している同じ地層が海岸に延び、むき出しになっているのがコンバクトに観察できます」という貴重な海岸です。

海岸では、白神山地から延びる500万年前の新第三紀中新世後期の安山岩が、柱の集まりのような壮観な景観となつて目の当たりにできます。

自然を背景にした神秘的な風習

男鹿半島は奇岩奇勝が続く国定公園であり、「男鹿半島・大潟ジオパーク」として自然美が旅人を誘います。



各施設のお問い合わせ先

- 風の松原
能代市後谷地 TEL:0185-89-2179 (能代市観光振興課)
- 八森いさりび温泉 ハタハタ館
山本郡八森町八森字御所の台51 TEL:0185-77-2770
- あきた白神体験センター
山本郡八森町八森字御所の台53-1 TEL:0185-77-4455
- 八峰白神ジオパーク
TEL:0185-78-2427 (八峰白神ジオパーク推進協議会)
- 男鹿半島・大潟ジオパーク
TEL:0185-24-9220 (男鹿市 ジオパーク推進班)
- 寒風山回廊展望台
男鹿市脇本宮永字寒風山62-1 TEL:0185-25-3055
- 入道埼灯台
男鹿市北浦入道崎昆布浦
TEL:090-1931-9706 (燈台会入道埼支所)
- 男鹿温泉郷 (男鹿温泉郷協同組合)
男鹿市北浦湯本字草木原21-2 TEL:0185-33-3191
- なまはげ館／男鹿真山伝承館
男鹿市北浦真山字水喰沢 TEL:0185-22-5050 (なまはげ館)
TEL:0185-33-3033 (男鹿真山伝承館)
- 男鹿水族館GAO
男鹿市戸賀塩浜 TEL:0185-32-2221

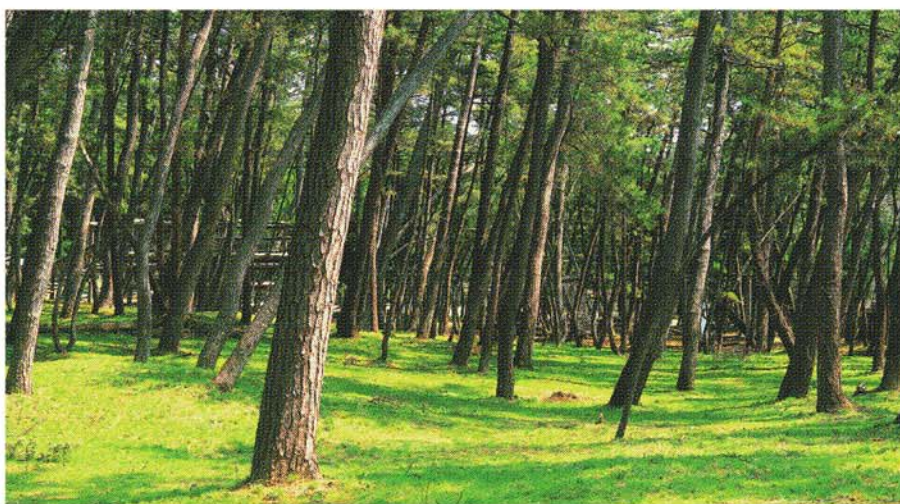
秋田デスティネーションキャンペーン開催中!



詳しくは、JR東日本の主な駅や「びゅうプラザ」にある専用パンフレット、またはホームページ(<http://www.travel.eki-net.com>)をご覧ください。



椿海岸では500万年前の安山岩が露出している



能代市の「風の松原」の面積は、東京ドーム約163個分



男鹿温泉郷「元湯雄山閣」の源泉かけ流しの湯

赤くなるまで熱した石を桶に投げ入れる男鹿伝統の「石焼き料理」



各地区のなまはげが一堂に会する「なまはげ館」



江戸期の紀行家・菅江真澄が記した、なまはげの風習 (秋田県立博物館蔵・写本)

あらためて見直されています。

「なまはげ館」は4月にリニューアルオープンし、「なまはげ勢ぞろいコーナー」を拡充しました。男鹿市内各地区のなまはげ面150枚が一堂に展示されています。

隣接する男鹿真山伝承館は築100年以上の民家を移築した曲屋で、真山地区のなまはげ行事を再現し、旅人もなまはげ体験ができます。

男鹿温泉で先人の偉業に触れる

男鹿温泉郷は江戸時代、佐竹藩の殿様も好んで入ったという1000年の湯で

す。「元湯雄山閣」会長の山本次夫さんは「200年前に、なまはげを初めて文獻で紹介したのは菅江真澄です。男鹿の地形を絵に描き、地層、断層に興味を持ち、今で言うジオパークとしての価値を示した最初の人でもあります」と、真澄に畏敬の念を持っています。山本さんは男鹿市菅江真澄研究会副会長でもあり、雄山閣には菅江真澄図絵集の館を設けています。その温泉も湯量豊富で、「噴き上げ源泉かけ流し」が温泉通に知られています。

また、この男鹿温泉郷では、真っ赤になるまで炭火で焼いた石を入れ、瞬間的に沸騰させる漁師料理「石焼き料理」が人気です。